

平成30年11月20日

糸満市議会議長 大田 守 殿

経済建設委員会委員長 西平 賀雄

委員派遣結果報告書

糸満市議会の議員及び委員の派遣に関する要綱第7条の規定に基づき、その結果を下記のとおり報告します。

記

- | | | |
|---|--------|----------------------------------|
| 1 | 日 時 | 平成30年10月22日～10月25日 |
| 2 | 場 所 | 鹿児島県鹿屋市、鹿児島県枕崎市、佐賀県有田町、福岡県糸島市 |
| 3 | 調査等の概要 | （別紙 報告書のとおり） |
| 4 | 意 見 | （別紙 報告書のとおり） |
| 5 | 参 加 者 | 西平賀雄、金城敏、国吉武光、玉城安男、當銘真栄、金城敦、徳元敏之 |

経済建設委員会報告書



豊重柳谷自治公民館長（向かって左）と経済建設委員

鹿児島県鹿屋市 串良町柳谷集落 視察

視察日時：平成30年10月22日 月曜日 午後2時から3時30分

調査事項：地域再生 行政に頼らないむらおこし

説明者：柳谷自治公民館館長 豊重 哲郎

1. 調査事項及び目的

鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落134世帯、286人が生活する小さな集落。土着菌を利用した環境保全型農業や6次産業化、空き家を利用して芸術家を集めるなど全国から注目を集めている「共生・協働」の地域づくりを視察することにより本市でも活用できないか調査・研究を行った。

2. 視察概要

豊重館長が就任して、真っ先に始めたのが土台づくりであった。当時の柳谷集落の余剰金はわずか1万円しかなかった。そのため、企業会計を導入した住民自治による財源確保に乗り出した。帳簿を付け、数字で表すことで、おのずと自分たちが置かれている現状が把握できる。ただ指示をするだけではなく、リーダー自身が自ら率先して活動して、親しみやすく近づきやすい人（勇気と度胸）になることで感動と感謝で人の心を揺さぶる。

地域の長老たちは、今までの慣習にとらわれ異論が多かった。そのような住民をどのようにして協働に巻き込むのに行動したのが、その人たちの子や孫たちのメッセージを集落の有線放送で地域の高校生たちによる代読。父の日、母の日、敬老の日に「日ごろの感謝のメッセージ」の朗読であった。そういったことを行動することで感動と共感を呼びメンバーに加わってきたとのこと。これを機に住民の絆が一挙に強まり、活動にも広がりが出てきた。



畜産業が盛んだった柳谷地区は糞尿による悪臭が地域の最大の問題であった。そのためどのような対策をとればよいか考えた結果、裏山に行けばどこにでもある土着菌の活用だった。土着菌を混ぜ合わせた飼料を家畜に与えることで悪臭問題は解決された。

臭いが軽減された家畜の糞は農作物の肥料として活用しさつまいも等を栽培、そのさつまいもを活用して芋焼酎を販売し自治会の収入とした。とうがらしは、粉末状に加工し、韓国へ販売し、好評を得ている。また、土着菌と米ぬかを混ぜ合わせた肥料の販売も行っているとのこと。このように地域の協働により6次産業を行うことによって地域への収益が増えると同時に地域住民のやる気、高齢者の生き甲斐や健康増進に大きく貢献、医療費も格段に減少したとのこと。地域住民の健康福祉の増進及び地域住民の協働により売り上げを伸ばし、今では国・県などにも税金を納めるまでになり、全世帯に1万円を還元することができた。また、地域の環境改善によりUターン等が増え、その子たちが子供を産み、人口分布の若返りに反映しているとのこと。



3. 所感

高齢者とは思えない元気ある豊重館長には驚いた。目を輝かせ生き生きとしていた。全国からも注目され「地域再生 行政に頼らないむらおこし」への視察に数多くの方が訪れている。平成27年には、当時の石破茂地方創生担当大臣、小泉進次郎内閣府政務官など国会議員も来訪されたとのこと。そこにたどり着くまでの経緯ははかり知れないものがあったようだ。概要説明の際も終始笑顔が絶えることなくうれしいように語っていたことがとても印象的だった。成し遂げたことへの充実感が説明の中でも溢れ出ていた。

本市においては、若い農業生産者が徐々にではあるが増えている。そのような若い生産者が集まって法人化し、6次産業まで行うことができれば所得が向上し、周りにも波及効果が生まれ、農業の活性化が期待できるのではないかと考えられた。また、高齢者の農業従事者もその輪に加わっていければ、若い農業従事者との意見交換等の場となり今まで以上にやる気が起こり、健康増進にも大きく寄与し、柳谷地区と同様に医療費の軽減となり本市の厳しい国民健康保険事業にも大きく寄与できるのではないかと考える。

鹿児島県枕崎市 枕崎漁港高度衛生管理型荷さばき所 視察

視察日時：平成 30 年 10 月 23 日 火曜日 午後 1 時 30 分から 3 時

調査事項：枕崎漁港高度衛生管理型荷さばき所について

説明者：枕崎市水産商工課 課長 下山 忠志

1. 調査事項及び目的

沖縄県漁連が競り機能を糸満漁港に移転することにより建設が予定されている「高度衛生管理型荷さばき施設」。枕崎漁港は平成 28 年 5 月に完成し、活用されていることから施設建設までの経緯、その後の課題やこれから建設予定の本市への提言等を伺うことにより機能性の高い施設の建設実現を図りたい。

2. 視察概要

(1)高度衛生管理型荷さばき所施設建設によるメリット及び売上高、所得の向上について
荷さばき施設からサポート簗への移し替え及びトラック積み込みまで施設内で行うため、冷凍カツオに直射日光が当たることがなく、表面の冷凍状態が保たれるようになった。そのようなことから、カツオの落下時による異物混入がなくなった。また、高度衛生管理型荷さばき所完成により、荷さばき従事作業員の衛生管理に対する意識の高揚が図られた。

売上高については、従来からカツオ節用の原魚となるカツオは海外巻き網漁船及びカツオ漁運搬船が水揚げを行っており、衛生化（冷凍庫への管理）が整備されているが、その後の搬送における運搬車に冷凍設備がなされていないことやカツオ節工場の施設において、全てが高度衛生管理型として整備されていないため、浜値に対する売り上げには反映されていない。



(2)施設の防風防暑対策、鳥獣類等による衛生対策について

本施設は、閉鎖型の施設であるため、風及び鳥獣の侵入に対しての対策が図られている。また、暑さ対策については、取り扱うカツオの状態が冷凍保存されており、選別され次第、短時間に冷蔵庫へと搬出されることから常時、表面は冷凍状態が保たれており、特別な対策は必要ではない。

(3)高度衛生管理型荷さばき所関連施設の配置及びそこに配置した理由について

枕崎漁港においては、冷凍カツオ用の海外巻き網漁船及び大型運搬漁船が接岸する—9m岸壁、青物用の大中型巻き網漁船の接岸する—6m岸壁、近海用引き網漁船が接岸—4.5m岸壁と用途ごとに区分されており、平成28年に供用開始した高度衛生管理型荷さばき所は冷凍カツオ用の整備のため—9m岸壁の背後に岸壁と一体的に整備を行った。



3. 所感

今回、枕崎漁港高度衛生型荷さばき所施設内を枕崎市及び枕崎漁協のご協力により見学させていただいたが、閉鎖型で衛生管理には徹底しており、搬送による運搬車両の排気ガスを排出するマフラーに直接ロフト管で繋ぎ、施設外に排出、また、運搬車両に積み込むリフトについても電気車を使用していた。このように施設内における衛生管理を徹底しても浜値には反映していないとの説明があった。漁獲時から競り時、中間業者の搬出等の全ての作業工程において、品質管理を徹底しないといけない。

本市においての取り扱われる魚種はさまざまではあるが、国際基準であるハサップ対応の衛生管理を基本に各種関係団体の作業における作業員等の意見を集約しなければならない。衛生的で効率の良い作業となるよう詳細な施設の有り方について十分な議論を行い、魚価格に反映されるよう取り組みを行うべきである。

また、どのような漁船が入港するかによって、岸壁の高さを用途ごとに漁港施設整備を行うべきと考える。



沖縄県漁連が競り機能を糸満漁港に移転するため、高度管理型荷さばき施設が建設予定されているが、その周辺に関連施設の張りつけが予定されている。漁港施設内に仲買人等民間施設の配置が可能か調べた。

枕崎漁港内において、当地の仲買人から配置割り当ての要望はなかったとのことである。



佐賀県 有田町 有田焼について 視察

視察日時：平成 30 年 10 月 24 日（水）午後 1 時 30 分から 3 時

調査事項：有田焼について

説明者：有田町商工観光課 課長 鷲尾 佳英
有田町議会産業経済常任委員長 梶原 貞則
有田町議会総務常任委員長 古賀 四郎

1. 調査事項及び目的

本市の工芸品を全国的に有名な「有田焼」を視察することによりどのような形で販路拡大を進めているのか。また、行政との協働での取り組み等を視察することで、本市の工芸品を広く周知し活性化に繋げたい。

2. 視察概要

(1)有田焼の歴史について

朝鮮人陶工李参平が 17 世紀初頭に有田町泉山で磁石を発見したことで、日本で初めての磁器製造が可能となった。それ以来、日本磁器発祥の地として現在まで続いている。

中国、韓国から伝わった技術に、有田の技術が加わり、有田焼の三大様式と呼ばれる「古伊万里」「柿右衛門」「色鍋島」を確立した。当時の佐賀藩は、製造技術が流出しないよう藩内に入ることが厳しく制限された。1650 年頃からオランダの東インド会社を通じて、ヨーロッパへ輸出されるようになり世界的にも有名になった。世界の王侯貴族を未了し、マイセンなどの名窯を誕生させる礎となった。



(2)売上高について

「有田陶器市（7日間）」、「秋の有田陶磁器まつり（5日～9日間）」、「有田雛のやきものまつり（35日～45日間）」などで平成 29 年には、39



万人余りの観光客が訪れている。有田焼主要企業売上高（共販制を行っている2つの組合と直販大手2社）については、平成3年の約249億円余りをピークに、バブル崩壊後は落ち込んでいる。

(3)インバウンド国別について

平成29年度において、台湾（29.9%）、韓国（24.5%）、香港（12%）、中国（10.9%）、その他アジア（3.2%）と8割以上がアジア諸国が占めている。

3. 所感

国内外とよく知られた有田焼である。外国の観光客も多い。誘客方法によっては、長崎市を訪れる観光客を当地に引き寄せることも可能性としては高いとみる。伝統的建造物群の保存地区もあり、焼物と共に外国人を呼び込む魅力があると思料した。

本市においても、以前は白銀堂、幸地腹・赤比儀腹門中墓も観光ルートになっていた。亀甲墓、破風墓は、沖縄独特なものであり、門中文化の行き着く地で再考する必要がある。

SNS等で確認すると外国人に人気を博していると掲載されていたが、世界的にも有名な有田焼でもバブル崩壊後は苦戦を強いられてようだ。しかし、行政との協働の各種イベントを積極的に開催し、印刷物等に思考を凝らしており、見る人を引きつけ目に留まるようなレイアウトとなっている。町役場内の接客において、有田焼を積極的に活用、学校給食の食器にも利用するなどピーアールに余念がない。1985年には、佐賀県立有田窯業大学校が設立、2016年には佐賀大学芸術地域デザイン学部有田キャンパスとして移行され、後継者、技術者育成にも力を入れている。近年、食器以外ではなく、タイル・磚子・ファインセラミック（耐酸磁器）などの工業製品も製造しており、多様化するニーズに応えるべく日々努力している。昼食として紹介してもらったレストランでは、オーナー自慢の有田焼のコレクションが数多く展示され有田焼等のお土産品と併設、オーナーのコレクションの中から気に入ったカップとソーサーでコーヒー等が味わえるなど女性客で賑わいを見せていた。

本市において、糸満ロータリー周辺のラウンドアバウト並びに風景づくり事業が行われている。また、糸満のくらし体感施設も建設されることから、昔ながらの情緒あるジョーグラーからマチグラーまでの観光散策ルートの中で本市の工芸品施設や工房、有田町の昼食時に利用したレストランのような各自お好みの工芸品で飲食等が味わえる施設が実現できたら、宣伝効果は大きいのではないかと感じた。また、インバウンドの増加による購買欲に応えるためにもキャッシュレス化の実現が早急に必要であると感じた。

福岡県糸島市 J A糸島産直市場「伊都菜彩」 視察

視察日時：平成 30 年 10 月 25 日 木曜日 午前 11 時 30 分から午後 2 時

調査事項：全国一の売上を誇る「伊都菜彩」

説明者：J A糸島 営農部直販課 課長 高橋 悟志

1. 調査事項及び目的

全国一の売上げを誇る J A糸島産直市場伊都菜彩を視察することによりファーマーズマーケットいとまん「うまんちゅ市場」に活用することができないか調査・研究を行う。

2. 視察概要

政令都市である 150 万都市福岡市と隣接し、福岡市中心部からおよそ 30 分の生活圏にあり、好立地な状況にある。組合員への 5 つの場づくりとして、

- ① 高齢化する農家組合員や女性の担い手が活躍できる場
- ② 糸島地域の食に関わる産業者が連携し、地産地消運動の拠点としての場
- ③ 中間流通コストを可能な限り削減し、農業所得の向上を図る場

④ 共販品の規格外品を有利に販売し、農業所得の向上を図る場

⑤ J A の共販から離れていった組合員を J A の販売事業に再集結させる場

として運営を行っている。⊗ マークは、「生産者が愛情込めて大切に育てたみずみずしい野菜・果物を糸島の畑から届ける」の意味が込められている。土日祝祭日にもなると、隣接の国道 202 号線まで車が渋滞し、国道を走る車の通行にも支障が出ており近隣住民から苦情が絶えないほど大盛況である。近々課題は、駐車場の確保が課題であるとのこと。

3. 所感

平日にも関わらず駐車場・店内ともごった返していた。沖縄県の人口より多い政令都市福岡市から 30 分の生活圏にあるという好立地な場所が全国一の売上げを誇って



いるように思える。その点、本市のファーマーズマーケットいとまん「うまんちゅ市場」は非常に頑張っていると思った。ただ、JA糸島伊都菜彩には、地元産を利用した数多くのスイーツが数多く陳列されており、女性客の目を引きつけていた。その点は、今後、ファーマーズマーケットいとまんうまんちゅ市場においても活用すべきではないかと感じた。